

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



3
2019

VOL. 162



開祖随感

かふく 禍福は裏表

新年度は、どこでも配置転換や異動があります。拔擢されて意気込む人もいますが、その陰には、「会社は、私の働きを評価してくれない」と、すっかり落ち込んでしまっている人もおられると思うのです。

私たちは「嫌なこと」と「うれしいこと」を二つに分けてしまいがちで、自分の意にそわないことはあくまでも拒絶して、気に入るほうだけを歓迎するのですが、じつは禍福はひと続きのもの、表裏一体のものなのです。

雨がふれば、次は晴れる日がきます。晴れが続けば、次には雨のふる日がきます。いつも春や夏のよ

うな陽気が続くつもりで有頂天になっていると、冬の寒さに震えなくてはならなくなってしまいます。しかし、冬の日を力蓄えておけば、その力を思いっきり発揮できる春が必ず訪れるのです。

栄転がチャンスなら、左遷もチャンスです。それをどちらに変化させていくか、自分の受け止め方次第です。「いま自分に与えられたこの場が修行の場」と腹が決まると、たちまちそれが結果になって現われてきます。

(『開祖随感』9, p. 40-41)

Living the Lotus 2019年3月号 (Vol.162)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 鈴木健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

自他の幸せを願う心

立正佼成会会長 庭野日鏡



「仏の子」だからこそ

私たちはみな、だれもが、自分や家族の幸せを願っています。そして、同時に他人の幸せを願う心も、私たちは持ち合わせています。

無量義経に「汝等今者真に是れ仏子なり。弘き大慈大悲をもって深く能く苦を抜き厄を救う者なり」（十功德品）とあります。私たちは「広大な慈悲の心をもって人びとの苦しみを除き、災難から救ってあげることができる」というのです。みなさんには、その自覚があるでしょうか。

あらためて先の経文を見ると、いまの一節の前に「あなたがたは、まさに仏の子です」という言葉が見られます。

つまり、「仏の子なので、人びとの苦しみを除き、災難から救って、安楽な気持ちにしてあげられる」というのです。

すると、私たちに「仏の子」という自覚があるかないかが大事になりそうですが、実際にそのような自覚をもって人とふれあっている人は少ないかもしれません。

ただ、たとえば「私たちの命は本来、無常であり、無我なのだ」ということがわかったら、その人は「仏の子」だと思えるのです。三法印（諸行無常、諸法無我、涅槃寂静）について自ら学んだり、あるいは人から聞いたりして、「ほんとうにそうだな」と胸に落ちるのは、「仏の子」だからです。

「初発心時、便成正覚（初めて発心するとき、すなわち正覚を成ず）」（華嚴経）の一句が示すように、「仏の教えの入り口に立ったとき、その人はすでに仏の悟りの一部をつかんでいる」といわれます。ですから、少しでも「ものごとは変化してやまないのだ」とか、「みんな仏性のあらわれで、この世のすべてが大調





和している」と気づいたならば、それは「仏の子」の自覚に違いなく、その人は自他の幸せを願い、周囲に幸せを運ぶ菩薩の一人といえるのです。

生きた経典として

佼成会では、「入会者即布教者」といいます。一般的な考えでは、仏の教えにふれたばかりの初心者が、人にご法を伝えることなどできない、というのがふつうです。ところが、^{きょうてん}経典には「自分がまだ迷いから抜けだすことができなくても、仏の教えを聞いた人は苦しむ人たちを救うことができる」と、はっきり示されています。

たとえば、友人に強い怒りを抱いていた人が、仏の教えを聞いて「その怒りは、友人を自分の思いどおりにしたいという^{りこしん}利己心が原因だった」と^{ないせい}内省したとしましょう。そして、そのことで和やかな関係をとり戻した体験談を、人を恨みつづけて苦しんでいる人に話したとき、「私もそのような見方、受けとめ方を身につけたい。気持ちを楽しんで、幸せになりたい」と思わせる力がそこにあるのです。

なぜなら、たとえ自分はまだまだ未熟でも、仏の教えが真理にかなっているからです。そして、だれもが人と調和したいと願っているからです。だからこそ、仏の教えを聞いて得た気づきや感動を素直に話すだけで、「私もこの人のように明るく、素直な心で日々をすごしたい」という願いや、「苦悩する人に寄り添って、幸せになる喜びをともに味わいたい」という^{りた}利他の心をも^{おこ}発さしめるのでしょう。

経典にはまた、「この教えは人びとが菩薩行を实践するところにある」とあります。いきいきと明るく生きる自分の姿をとおして、苦悩に沈む人の心に真理の光を届け、安らかな人生に導いていく「^{いっさいしゅじょう}一切衆生の^{ろうふくてん}良福田」、すなわち幸せを生みだす一人ひとりになっていきたいと思えます。

その意味で私たちは、いつでも、だれにも、「明るく、優しく、温かく」の姿勢を忘れないことです。経文を上手に説明できなくても、相手を思いやる姿勢に徹する人は、自他に幸せを運ぶ「生きた経典」となり得るのです。

(『佼成』2019年3月号)





私を教えに導いてくれたすばらしい出会い



スリランカ教会
スナンダ・ティラカラトネ

この体験説法は、2018年9月9日にスリランカ教会で行なわれた、スリランカ教会発足20周年記念式典で発表されたものです。

私は、スナンダ・ティラカラトネと申します。現在58歳です。20年前に立正佼成会に入会してからこれまで、佼成会の信仰をいただいて生活してこられたことに感謝しています。これから、私のこれまでの人生の中で、すばらしいご縁をいただいた方々の中から3人の大切な人についてお話しさせていただきます。

最初に心に思い浮かぶのは、母の姿です。皆さんも、最初に思い出すのはお母さんのことではないでしょうか。13歳になるまで、私は毎日母の姿を見ないと安心できないような甘えん坊でした。

次に心に思い浮かぶのは父の姿です。3歳の時、父は私に小さな玩具の木馬と自転車を買ってくれました。母が毎日歌ってくれた子守歌は忘れてしまったのに、父が私を木馬に乗せて歌ってくれたヒンディー語の歌は、なぜかよく覚えています。



スリランカ教会で説法をするスナンダさん

両親以外に、もう一人すばらしいご縁をいただいた方のお話しさせていただきます。1963年のウェサックポヤ(毎年5月の満月の日)の朝、当時3歳だった私が目を覚ますと、家の中はとても美しく飾りつけがされていました。私たちは父が仕事場にしていた建物の裏にある小さな部屋で暮らしていました。家の中も、仕事部屋も、ウェサックのために飾りつけがされていました。父は私を抱っこして、自分で作った飾り(トラナ)を見せてくれました。トラナには人の姿が描かれていて、私はその絵がとても好きになりました。父はその人を尊敬していて、みんなその人のためにいろいろな飾りを作っているんだよ、と教えてくれました。それを聞いて、私は生まれて初めて、世の中には両親より尊い人がいることを知りました。

ウェサックポヤの日に花を供え、燈明を灯し、線香を立ててお経をあげるのは、尊い仏さまのためであることを、私はその時初めて知りました。その日から、私は、母と一緒にお経をあげるようになりました。私のなかでは、両親と仏さまがすべてでした。

私は子どもの頃、毎年5月にウェサックポヤの日がやって来るのを楽しみにしていました。なぜなら、その日はスリランカの国中がキラキラと色とりどりの飾りで光り輝くからです。私が小さい時から、父はウェサックポヤのためにランタンを作り、家に飾っていました。

私も10歳の頃からローソクを使ってランタンを作り始めました。結婚して子どもが生まれてからは、毎年子どもたちのために作ってきました。ランタンが雨に濡れて壊れてしまった年もあり、その時はなぜ仏さまは私

のお供えしたランタンを守ってくれないのだらうと思いました。

立正佼成会に入会する前から、私は仏さまを信仰し、さまざまな行事にも参加していました。お寺の行事のお手伝いをし、お寺の檀家組織の代表もさせていただいてきました。そして、自宅にも仕事場にも仏さまをお祀りし、手を合わせていました。

ところが1996年のウェサックの月、忘れもしない出来事が起きました。経営していた写真店が火事になり、建物が全焼してしまったのです。そのため仕事もできず、お金にも困るようになりました。従業員の一人が仏さまに供える燈明に火を点けたあと、マッチの燃えさしをごみ箱に捨てたことが火災の原因でした。それは私にとってあまりにも悲しい出来事でした。

仏さまのために燈明をお供えたのに、仏さまは私を守ってくれなかったと思うと、とても悲しくなりました。それからは仏さまを信じられなくなり、お寺にお参りすることも、仏さまに供養することもやめてしまいました。スリランカでは、お坊さまの前で五戒を唱えるときは合掌するのが普通ですが、私は腕組みをしていました。

火事から約半年間は、私にとって本当につらい日々でした。そんな時、妻の兄のマヘーさんから、ガミニ・チャンドラセケラさんを紹介されたのです。ガミニさんは、私に会うたびに、日本にある仏教団体の話をされていました。そしてしばらくしたある日、ガミニさんに誘われて、私たちは家族でその団体の行事に参加したのです。

その団体が立正佼成会でした。とても荘厳な式典で、私はそこに日本から参列されていた方のお話に感動し、佼成会の会員になりたいと思い、その日のうちに入会しました。その方は、その後南アジア国際伝道センター長になられた島村雅俊さんでした。私は島村さんを今も心から尊敬しています。会員になって、行事に参加するようになると、それまで遠ざかっていた仏さ

まを再び信じられるようになり、自分の身近に感じられるようになりました。

自宅のあるワットラと教会法座所のあったデヒワラとの間には距離がありましたが、私にはとても近く感じられました。

私はスリランカの各地を回って佼成会の教えを布教しながら、バンコクや東京で行なわれたセミナーにも参加して、佼成会の教師資格を取得するために勉強を重ねました。その結果、私はそれまで以上に仏さまに近づくことができ、50人以上のスリランカの人たちを佼成会にお導きすることができたのです。その中の一人が、現在支部長をされているパーシーさんです。パーシーさんがいま支部長のお役を通して精進されていることを、私はとてもうれしく思います。

入会してからの20年の歳月の中には、うれしいことや、楽しいことがたくさんあった反面、つらいことや悲しいこともありました。佼成会から逃げ出したいと思ったこともありました。

スリランカ教会には、立正佼成会の教えを正しく理解していない会員さんが、グループに分かれて互いにいがみ合い、悪口を言い合っている時期がありました。2010年、そうした非常にたいへんな時期に、山本宜亮教会長さんがスリランカ教会に赴任して来られました。山本教会長さんをお迎えできたことは、本当にありがたいことでした。

教会長さんが着任されてからも、サンガの中ではグループ同士の諍いが続いていました。しかし、山本教会長さんは、すべての会員さんに平等に暖かく接していただき、やさしい慈悲の心で一人一人の仏性を捧んでくださいました。

やがて、スリランカ教会の会員さんたちの間に、山本教会長さんに対する信頼が少しずつ深まってきました。また、教会長さんの奥様の佳代さんが、教会長さんと一緒にスリランカに来てくださったことも、教

Spiritual Journey

会にとって素晴らしいご縁となりました。20年間待ち望んでいた教会道場の建設も実現しました。スリランカ教会の現在の姿に、私はうれしくてなりません。

母が教会道場で行なわれたご命日式典に参加させていただいた時のこと、血圧の高かった母は式典の途中で具合が悪くなってしまいました。家がすぐ近くにあったため、普通であれば家に連れて帰るところを、式典に参加したがっていた母の気持ちを考え、会員さんたちは母に薬を飲ませて介抱してくださり、マットレスに横になったまま説法を聞けるようにしてくださったのです。

私はその時、ほかの用事があってその場にはいませんでした。遅れて教会に到着した私は、マットレスに横になって、会員さんに介抱されながら、お坊さまの説法をうれしそうに聞いている母の姿を見て、なんてやさしい会員さんたちに支えられているのだろうと思い、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

母はその後亡くなりましたが、最後に会員さんたちの温かい心にふれ、幸せだったと思います。

佼成会の教えを通して、私は、人生にどんな苦勞があろうと、仏さまの教えをいただいて、苦から逃げずに真正面から向き合って生きていこうと思えるようになりました。どんなに困難な時でも、仏さまはいつも私を守護してくださり、私に手を差し伸べてくれる人を遣わしてくださいました。

母は生涯を通して、常にお寺を大切にし、たくさんのお坊さまの説法を聴いておりました。しかし、今から10年前、父が亡くなったとき、母の実家があるベンムツラ村の親戚が誰も父の葬儀に来てくれなかったことを怨み、母はそれ以来、決して実家に帰ろうとしませんでした。母の気持ちを察して、私も母の実家には近づかないようにしていました。

母が亡くなる10日前、私は親戚の人たちのことを怨む母の心をなんとか癒してあげたいと思い、法華

経の「提婆達多品」の教えについて母にお話しさせていただきました。怨みを捨てて、人の仏性を拝んでいくことの大切さについて話すと、母は私の気持ちを理解してくれました。そして亡くなる一週間前、母は家族に付き添われてベンムツラの実家を訪れ、親戚の人たちと、楽しく、ありがたい一日を過ごすことができたのです。親戚の人たちと仲直りできたことは、母の来世に向けて大きな功德になったことと思います。

母は死が近いことを悟ると、自分が使っていた酸素吸入器をお寺にお布施したいとお坊さまに伝えました。そして人生の最後の一週間を、法華経で教えていただいている菩薩さまのように過ごして亡くなりました。

この素晴らしい立正佼成会の教えをスリランカに紹介くださったガミニさんと、私を立正佼成会に導いてくださったマヘーさんに、心から感謝しています。さらに、マヘーさんとお会いできたのは、妻のおかげであり、妻を紹介してくれたのは私の両親ですので、妻と両親にも感謝しています。立正佼成会との出会いのおかげさまで、仏さまの教えを深く理解することができ、私は人生にこの上ない貴重な宝を戴くことができました。



国際伝道部リーダー教育に参加するスナンダさん(右)

Living the

LOTUS



法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經

藥草諭品第五

《信解品第四》における摩訶迦葉^{まかかしょう}の体験発表をお聞きになった釈尊は、「よろしい。迦葉よ。そなたはまことによく如来の真実の功德を説きました」とおほめになり、仏の教えとそれを受け取る衆生の関係について、〈三草二木の譬え〉をもって、さらに分かりやすくお説きになったのが、この品です。その説法を要約しますと、次のとおりです。

三草二木の譬え

「迦葉よ。まことにそなたのいうとおりです。仏の功德は無限です。如来は、真理を知りつくし、それを自由自在に説くことによって、ありとあらゆる人びとを平等に生かし、最終的には完全円満な仏の智慧にまで導くのです。たとえていえば、この地上にはいろいろさまざまな草木^{くさき}が生い茂っています。その草木は、大きさにも大・中・小があり、性質も、すがた形も、千差万別です。しかし、すべての草木に共通していることは、ひたすら雨の潤いを欲し求めていることです。

そこへ、空いっぱい^{だいん}に大雲が広がり、雨が降ってきました。雨は、地上にくまなく降り注ぎます。あらゆる草木を、平等に、そして豊かに潤してくれます。小さい草も、中くらいの草も、大きい草も、小さい木も、大きい木も、みんなその潤いを受けて生気を取り戻し、いきいきと生長してゆきます。

こうして、同じ雨が、一様に降り注ぐのですが、それでも草や木は、その種類によって生長の度合

いが違い、すがた形が違い、咲く花が違い、結ぶ実が違います。

迦葉よ。如来は、空全体をおおう大雲のようなものです。如来の説く教えは、地上にくまなく降り注ぐ雨のようなものです。一切衆生は、大・中・小ささまざまな草木のようなものです。

如来の説く教えは、この宇宙の真理です。真理というものは、その根本においてはただ一つ、〈諸法実相^{しよほうじつそう}〉ということしかありません。従って、如来の説く教えも、降り注ぐ雨と同じく、ただ一相^{いっそう}一味^{いちみ}なのです。ところが、人びとの天分や性質は、一人一人^{ひとりひとり}違います。生い立ちも、健康も、環境も、職業も、それぞれ違います。そういうさまざまな条件の違いがあるために、みんながひとしくもっている仏性^{ぶつしょう}はまったく平等であるにもかかわらず





らず、真理の雨の受け方にさまざまな違いが生じてくるのです。

しかし、いくら受け方が違って、それぞれの人が真理の雨を受けて、天分の性質のまにまに生長し、それぞれの花を咲かせ、それぞれの実を結ぶという点においては、まったく平等なのです。植物は、いったい自分が大きな草なのか、中くらいの草なのか、小さな草なのか、そのようなことは少しも知りません。知らないままに、とにもかくにも、自分のもって生まれた性質をすくすくと伸ばしていくのです。

人間も、仏の目から見れば、この草や木と似たようなものです。自分の現在の境地が、いったいどの程度のものであるか？ この宇宙の中において、自分はどれほどの価値をもっているのか？ それを正確に知りうる人はありますまい。知りうるのは、ただ仏のみです。仏は、すべての人びとの現在おかれている境界と、精神的な境地の区別を正しく見極め、しかもすべての人びとがその根源においてはまったく平等な存在であることを、はっきり知っているのです。

そういう明らかな智慧に基づいて、それぞれの人にふさわしい教を説き、すべての人を人生苦

から解脱させ、人間としての正しい向上の道をたどらせるのです。ですから、仏の救いにはいろいろな形があるように見えます。けれども、その根本においては、仏の教はただ一つであり、すべての人に平等に降り注ぐものなのです。みなさんの、形のうえにあらわれた天分・性質・環境その他の条件が違うからこそ、形のうえにあらわれた仏の教も、そして救いも、違うように受け取れるのです。そこが仏法の至妙なところなのです」

本質の平等相と現象の差別相

この譬えに示されている表面の眼目は、〈仏法の救いの、形のうえにあらわれた差別相と、本質における平等相〉であります。しかし、現代のわれわれは、この譬えから〈人間の本質における平等相と、現象のうえの差別相と、その双方をよく認識するのが正しい智慧である〉という教を汲み取らねばなりません。

本質における平等相の認識のみに片寄れば、世間離れした仙人のようになってしまい、とても実生活には耐えられなくなります。かといって、現象にあらわれた差別相のみにとらわれれば、優越感・劣等感によるわずらい(慢心・軽蔑・侮辱・嫉妬・憎悪・反抗等々)や、貪欲による争いや苦しみが、かぎりなく起こってきて、人間社会が救われることはありません。

人間は、それぞれ姿(すがた)は違って、その本質は、そのまま仏と一体なのだ、ということをしつかり認識してこそ、自分をほんとうに生かし、他の人びとをもほんとうに生かす正しい生き方ができるわけです。これがこの品の現代的な受け取り方であります。

妙法蓮華経 授記品第六



この品には、《信解品第四》の体験発表によつて、^{まかかしょう}摩訶迦葉・^{まかもっけんれん}摩訶目犍連・^{しゅぼだい}須菩提・^{まかかせんねん}摩訶迦旃延がほんとうに仏法を^{しんげ}信解したことをお認めになったお釈迦さまが、この四人に^{じゆき}授記されたことが述べられています。授記というのは、《方便品第二》のところで述べたように、「そなたは必ず仏の悟りを得、仏の境地に達するであろう」という保証を与えられることをいいます。

授記には条件がつく

しかし、この保証にはいつも条件が付いています。それは「これこれの修行をした後に……」ということです。いわば、仏の悟りを得る大学への入学許可書のようなものであって、決して卒業証書ではありません。これから先の勉強が絶対必要なのです。《譬諭品》のところで暗示された^{たりき}〈他力〉と^{じりき}〈自力〉ということが、ここで、また違った形で示されていることに注目すべきです。

(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』
佼成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 68-74)



幸せを生み出す一人ひとりになろう

創立記念日を迎える3月となりました。教団創立百年に向かう81年目のスタートです。

会長先生からは、年頭に「自己を進化してゆこう」との年間テーマをいただいています。新年の御親教では、道元禪師^{どうげんぜんじ}が自分以外のすべてを「他己^{たご}」と呼び、「己^{おのれ}」とは「自己」と「他己」が一つになったものと大きく捉えていたことをご紹介くださり、あらためて「自他一如」「すべては一つ」との認識をお示しいただきました。

今月のご法話では、無量義経^{むりょうぎきょう}の十功德品の経文を引用され、「仏の子」の自覚をもって、相手を思いやる姿勢に徹し、自他の幸せ・救われを生み出す一人ひとりになっていきましょう！とご教示くださいました。

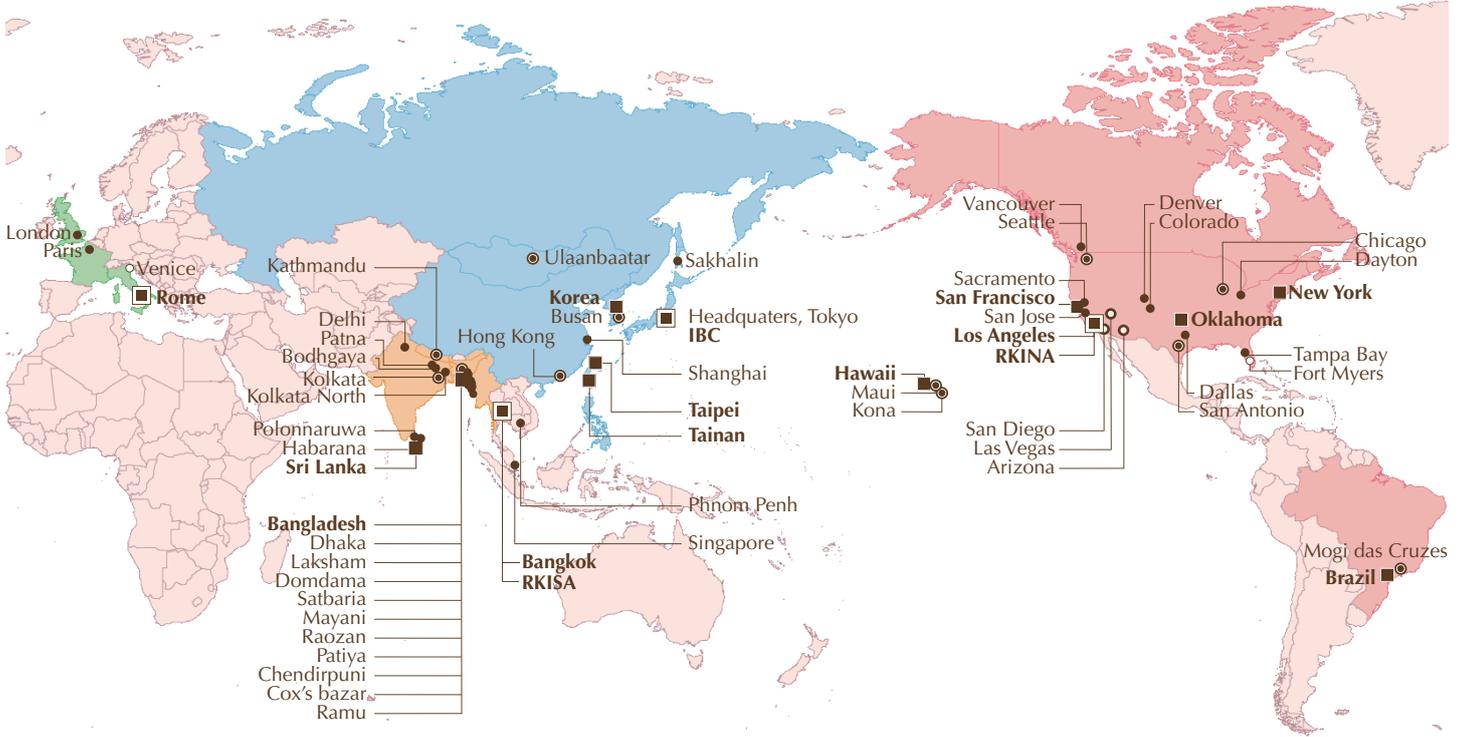
「一人でも多くの人に法華経に示された人間の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにしていただきたい」との開祖さまの本会創立の願いをわが願いとして、今月も布教伝道に取り組ませていただきますよう！

国際伝道部長
齋藤 高市



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
 Tel: 81-3-5341-1124 Fax: 81-3-5341-1224
 e-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street, Suite #1, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
 Tel: 1-323-262-4430 Fax: 1-323-262-4437
 e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003 U.S.A.
 Tel: 1-253-945-0024 Fax: 1-253-945-0261
 e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
 P.O. Box 692148, San Antonio, TX 78269, U.S.A.
 Tel: 1-210-561-7991 Fax: 1-210-696-7745
 e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
 Tel: (727) 560-2927 e-mail: rktampabay@yahoo.com
<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
 Tel: 1-808-455-3212 Fax: 1-808-455-4633
 e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
 Tel: 1-808-242-6175 Fax: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740 U.S.A.
 Tel: 1-808-325-0015 Fax: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
 Tel: 1-323-269-4741 Fax: 1-323-269-4567
 e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
 Tel: 1-650-359-6951 Fax: 1-650-359-6437
 e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
 Tel: 1-212-867-5677 Fax: 1-212-697-6499
 e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
 Tel: 1-773-842-5654 e-mail: murakami4838@aol.com
<http://rkchi.org/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
 Tel: 1-405-943-5030 Fax: 1-405-943-5303
 e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
 Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
<http://www.rkina-dayton.com/>

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
 CEP 04116-060 Brasil
 Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377 Fax: 55-11-5549-4304
 e-mail: rissho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
 CEP 08730-000 Brasil
 Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Zhongjheng District,
Taipei City 100, Taiwan

Tel: 886-2-2381-1632 Fax: 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701, Taiwan

Tel: 886-6-289-1478 Fax: 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420,
Republic of Korea

Tel: 82-2-796-5571 Fax: 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 Fax: 82-51-643-5572

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan

Tel: 81-3-5341-1230 Fax: 81-3-5341-1224

e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibrk-rk.org/>

Branches under the Headquarters**Rissho Kosei-kai of Hong Kong**

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation

Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai**Rissho Kosei-kai of South Asia Division**

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand

Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand

Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division**Rissho Kosei-kai of Delhi**

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur, Kathmandu,
Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna**Rissho Kosei-kai of Singapore****Thai Rissho Friendship Foundation**

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand

Tel: 66-2-716-8141 Fax: 66-2-716-8218

e-mail: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh

Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh

Tel & Fax: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station:
Mirshari, District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni

Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu**Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka**

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka

Tel: 94-11-2982406 Fax: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa**Branches under the Headquarters****Rissho Kosei-kai di Roma**

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia

Tel & Fax: 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK**Rissho Kosei-kai of Venezia****Rissho Kosei-kai of Paris**